

各地の話題 石巻市

排水から肥料原料を製造 安心の菌体りん酸肥料

2025年12月19日号掲載



政府は2023年10月、汚泥を原料とする肥料の流通促進のため、肥料法に「菌体りん酸肥料」の規格を設定。成分が保証されたことで、他の肥料と混合できるようになった。

(公社)石巻市水産加工排水処理公社(石巻市)は、2023年11月に同市魚町(さかなまち)地区の水産加工場からの排水処理で生じた汚泥等を乾燥させて製造した「菌体りん酸肥料1号・2号」を全国で初めて肥料登録。その後3号を登録。肥料の製造販売等を事業とする朝日アグリア株式会社(東京都)の肥料「新レオグリーン特号」の原料として全量販売している。

公社と朝日アグリアは、1982年頃から汚泥資源水産加工排水を活用する取り組みを進めており、両者で原料の製造・提供を続けていた。1号は汚泥のみ、2号と3号は汚泥と肉片フロス(魚由来の油分及び肉片等)を使用し、公社管理課課長補佐の千葉勝美さんは「1号は45t/月、2号と3号で10t/月製造され、年間の製造量は約660t。品質は安定しており、重金属等の分析費用は増加しているが、保証成分の分析は朝日アグリアが行ってくれている」と現状を語った。

公社の常務理事の阿部昭さんは「りん酸肥料は匂いや重金属による土壌汚染の懸念は全くない。安心して製造された肥料を使用してほしい」と話す。

【記事執筆】 宮城県農業会議

「菌体りん酸肥料1号」と千葉さん。フレコンは朝日アグリアから提供



「菌体りん酸肥料1号」



汚泥はベルトプレス型の脱水機で脱水される

